

ビデオとアンケートシステムを活用した情報職業科目教育の実践

仲林 清***

An Educational Practice using Video Content and Questionnaire System in Information Technology Profession Class

Kiyoshi NAKABAYASHI***

This paper discusses an educational practice conducted in “information and profession” course aiming to foster knowledge about the impact of information technology in the society and the importance of problem solving ability. The course was designed to provide learners with authentic situation and opportunity to be aware of other learners’ idea. Video program and questionnaire system were utilized to implement this design goal. Evaluation results indicate that the course objective was fairly achieved in terms of learners’ comprehension and motivation.

キーワード：教科「情報」、情報と職業、学習の動機づけ、既有知識の活用、他者とのやりとり

1. はじめに

高校の教科「情報」では、コンピュータや情報ネットワークの技術的な側面だけでなく、情報技術が社会や企業活動において果たす役割や、情報技術を活用する上で必要となる問題解決力などを学習させることが求められている^{(1)~(3)}。したがって、このような教科を高校で担当する教員は、情報技術の社会における役割や問題解決力などを、十分に理解・把握している必要がある。一方、大学の教職課程を終えて教員となる学生は、十分な社会経験を積む機会がなく、大学卒業時に、教科「情報」で求められているような情報技術の役割や問題解決力などを高校生に教育できるほど十分に身につけているとは言い難いと思われる。

本論文では、このような問題意識のもとに、大学3年次を対象とする高等学校教諭1種免許状（情報）取得の必修科目である「情報と職業」において、ビデオとアンケートシステムを活用して教育効果の向上を

図った実践の報告を行う。もとより、大学の一科目の講義の中で、情報技術の役割に関する理解や問題解決力などを実践的に活用できるまでに向上させることは困難であると考えられる。一方で、情報活用力を現実の場面で発揮できるように育成するためには、これらの知識やスキルに関する高い意欲・関心を学習者に持たせることが重要であることが指摘されている⁽⁴⁾。本実践でも情報技術の役割や問題解決に関して、学習者に基本的な知識を与えるとともに、興味や関心を抱かせ、これらの分野に関して学習を継続する動機づけを行うことを目標とした。

情報教育の分野でビデオを活用した授業実践を行った例⁽⁵⁾があるが、この事例は著作権教育を対象としたもので本論文とは教育主題が異なる。教科「情報」における問題解決力の育成のための課題学習の研究⁽⁶⁾も行われているが、実施内容は20名程度の被験者を対象とした数時間の実験であり、50名以上の受講者を対象として半期の授業を実施した本研究とは学

* 千葉工業大学情報科学部（Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology）

** 熊本大学教授システム学専攻（Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University）

受付日：2010年11月8日；再受付日：2011年2月22日；採録日：2011年4月8日